

令和3年度 東小学校英語科特例校の実施状況について

大泉町立東小学校

1 英語科特例校の内容

小学校1・2年生において、「外国語活動」を実施する。

近年、国際化・グローバル化が進んでおり、今後その流れはますます大きくなることが予想される。令和2年度からの新学習指導要領では、3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」が新設され、外国語教育の一層の充実を図ることとなっている。そこで、大泉町内の全ての小学校において、特別の教育課程を実施し、早期から英語の学習を始めて英語教育の充実を目指していく。

2 児童アンケートの結果

<質問項目>

①「外国語活動」の時間は、楽しいですか？	97,4 %
②「外国語活動」の時間は、先生や友達とすすんで英語で話していますか？	94,8 %
③英語であいさつをしたり、英語で言ったり、答えたりすることができますか？	88,7 %

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・ゲーム活動が楽しかった。(複数回答)

3 保護者アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	96,1 %
②お子さんは、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	92,1 %
③お子さんは、英語であいさつをしたり、英語で言ったり、答えたりすることができますか？	67,1 %

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・子どもにALTの正しい発音を覚えてもらいたい。

4 教職員アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	100 %
②児童は、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	100 %
③児童は、英語であいさつをしたり、英語で簡単な質問に答えたりすることができますか？	100 %

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・英語の専門ではないので、JTE の存在がありがたい。

5 成果と課題

<成果>

- ・コロナ禍で活動が制限される中でも、クロームブックを使用した活動も取り入れるなど、新たな工夫ができた。
- ・英語の授業後に、その日の学習内容を友だちと楽しそうに話す児童の姿が見られた。
- ・低学年のうちに英語に触れることで、高学年でも自ら進んで英語に親しむ姿勢に繋がっていると感じる。

<課題>

- ・マスクを着用していたため、ALT の口の動きが見せられなかったり、児童の声が届きにくかったりする場面が多く見られ、コミュニケーション能力を高められたか不安が残っている。
- ・簡単すぎるやり取りは、繰り返しを避ける工夫をしていく必要がある。
- ・低学年の外国語活動では「親しむ」が優先されるため、話せなくても書けなくても先に進んでしまう。しかし、学習するのであれば、アルファベットを正しく覚え、声に出して読めるようにすることも必要だと感じる。

6 学校関係者（学校評議員）の評価結果

- ・高学年になると、難しい内容に取り組んでいて驚いている。
- ・子どもたちが、先生が話す英語を聞き取り、集中して取り組んでいるのがすばらしい。